

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>正面玄関・棟内のわかりやすい場所に運営理念を掲示している。全職員は理念について理解し「あなたらしさ」大切にその暮らしを支えるサービスをして事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>朝のミーティング時唱和している。申し送り勤務に入る前に必ず理念に触れながら確認し合っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレット、入居案内時の説明文書に明示する他、利用者や家族に分かりやすい言葉で説明し、玄関、棟内に大きく掲示することで理解してもらえよう取り組んでいる。行事等通して理念を伝えている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>天気の良い日は散策しながら地元の店に出掛け近隣との挨拶を交わしたり、日頃から触れあう機会作りをしている。運動会の参加や、畑づくりの指導の協力を得ている。地域商店呼びかけし、水曜日・衣料店、土曜日・雑貨店が出張販売に来てくれている。地域の老人クラブ等に事業所見学などを呼びかけをし参加してくれている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法等、毎月の定例会や勉強会や随時行われているカンファレンスの場で話し合いする事により、運営者、管理者、全職員が周知できている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族・地域住民・地域包括センター・行政の職員等が参加する会議であり、検討事項や懸案についてその経過を話し合いアドバイスをもらいながらサービス提供し向上に繋げている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で積極的に意見交換している。事故があった場合でも、速やかに連絡し、アドバイスをもらっている。課題の発生した場合は都度相談し方向性の指導を頂いている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、勉強会を通して制度についての理解は得ている。運営推進会議で話題として取り上げている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解、浸透している。虐待行為が発見した場合の対処方法については、事業所で周知徹底されている。定例会等、機会を設け、資料を回覧し学んでいる。特に言葉遣いに気をつけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書・事業所独自の同意書を明確に説明している。契約の改訂する場合は、家族等に文書を渡し説明し納得を得ている。利用者の状態変化による退居する場合は、家族を交えて対応方針、退居先の情報提供している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者を、日常的に意識的に会話する機会を多く設け、出された意見や苦情には事業所全体で、速やかに対応し、質の高いサービス提供に活かしている。推進会議では利用者に意見など発表してもらっている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時利用者の状況を報告しその事について話し合っている。受診前、受診後、変化時は都度連絡し又、家族も一緒に病院に同伴している。利用者の暮らしぶりやエピソード等毎月メッセージに写真を添えて送付している。金銭については用途の確認や金銭出納帳を明示。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	正面玄関・棟内カウンターに苦情箱設置している。入居契約に本人・家族に意見を聞き、不満のないように説明している。面会時苦情ないか話しやすい場面づくりをしている。又、家族との会話を大切にし信頼関係づくりに努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会、勉強会を行い意見交換は日々行っている。担当者を中心としたカンファレンスは毎月月末に行っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせた人員の確保し、時間の調整は必要に応じ都度行っている。職員も協力的である。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が継続的な体制になっている。馴染みの職員が対応する事で家族への信頼関係を築いている。新しい職員配置時は利用者にきちんと紹介し利用者のダメージを防ぐ取り組みを行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じ研修に受講している。介護用の文献、ビデオ専門書等を設置し、活用できる配慮はできている。研修レポートを提出し定例会・勉強会で発表しケアマネージャーから助言・指導体制を取っている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や、グループホーム協会等の研修に参加し、事例検討したりし交流を図り質の向上に努めている。地域の同業者と交流を定期的にもてるよう呼びかけをしている所である。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会・慰安旅行と親睦の場を作り、気分転換を図れる機会作りをし、各自のストレス発散、軽減の工夫に取り組んでいる。行事の際に着用するシンボルマーク入りのTシャツを作るなどし職員が一体感を持って仕事ができるよう取り組みしている。職員の意見を反映した休憩時間を取っている。休憩室に空気清浄機の設置。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実施。運営者は管理者、職員と話す機会を作り個々の状況を把握している。(定例会・カンファレンスへの参加など)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に関係者（包括・行政等）から情報の提供を受け利用者、家族と面談し生活状態を把握する様に努め不安や理解しようと工夫し本人に合ったケアサービスを行っている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思いや状況を確認しニーズの改善に向けている。又、地域包括支援センターと連携し対応に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の生活ペースに合わせたサービス提供し、双方の意向をもとに十分な話し合いをし納得して頂いた上でのサービス提供している。家族にその都度相談している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として得意分野を引き出して生活の場面作りし心に寄り添うことで共に支え合う関係作りに努めている。裁縫・料理・鉢植え・畑作りを教えて頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝達する事で家族との協力関係は築けている。日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努めている。誕生会・運動会など行事には家族の参加もお願いし実施している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いや状況を見極め外出を勧め家族と一緒に過ごしてもらいよりよい関係作りの働きかけを心掛けている。日々の利用者の状況は面会時、電話等で伝え来訪しやすい場面や機会作りに努めている。毎月生活状況をメッセージで送付している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所についての把握に努め、交流が継続できるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係についての情報連携し全職員が共有できるようにしている。孤立しないように毎日お茶の時間に職員と一緒に会話したり利用者同士の関係が円滑になる働きかけはしている。個々に合わせた役割担当をしていることで支え合うようにしている。テーブル席の移動なども協力し行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院になった場合でも家族の相談にのり継続的な関わりをしている。契約終了となった場合でも家族と連絡をとり相談・助言等を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で言葉や表情などから真意を汲み取り、理解し把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族の協力を得ながらアセスメント、カンファレンスをしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を把握しプライバシー尊重している。来訪した際にも家族より情報収集し努めこれまでの暮らしに敬意を持ってその経過に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し動作行動等から感じ取り、生活記録に詳しく記録し、できる力・わかる力を暮らしの中で汲み取り把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞き日々の関わりの中で思いや意見を聞きアセスメント、カンファレンスを行いケアマネージャー、職員の意見交換し介護計画の作成に活かしている。カンファレンスは月1回だが特変時はその都度ミニカンファレンスを行っている。医学的な事は看護師より助言を受けている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に沿って行っている。実施期間終了後は評価にもとづいて見直しを行い3ヶ月に1回の見直しをしている。1カ月に1回のカンファレンス、状態が変化した際には終了する前であっても検討見直しは随時行っている。計画書は本人・家族に説明し納得した上で署名・捺印をもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し生活歴、食事、水分量、排泄、バイタルチェック、入浴チェック、身体的状況等日々の暮らしの様子を記録している。個別記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。職員間の情報共有はカンファレンス・申し送りノート参照で徹底している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族のニーズに応じて、受診・外出の移送支援を柔軟に対応している。又、冠婚葬祭など職員の付き添いにて参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方のボランティア・消防団の協力を得ている。連絡先は緊急連絡網に記載している。町の文化祭など積極的に参観している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じては、他のサービス利用の支援を行っていくが、現在利用希望はない。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加する事で情報交換、協力関係にある。現在成年後見制度の利用はない。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の協力は得ている。定期的な受診でも家族に受診結果は報告している。家族の都合を聞き入れ職員と一緒に受診同行支援も行っている。受診結果はすぐに家族に報告している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時前からの認知症専門医よりの指示・助言有り対処方法は個々にできている。西北中央病院（精神科）布施病院受診することで連携にある。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師確保されており日頃の健康管理、医療面等での相談・助言もらい対応している。経営者も、看護師であり24時間相談可能である。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は医療機関に情報提供し職員は見舞いを行う事で家族と情報交換し退院支援している。又、退院後の転居に対しての支援体制もとっている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針については、家族が受診に同行し、かかりつけ医と話し合う機会を持つように支援している。又、同意書を作成しその対応に備えている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変した場合はすぐ対応し医療機関に密に連携を図り対応している。本人・家族が納得した最期を迎えられるよう支援している。緊急マニュアルにて、周知徹底。緊急連絡網訓練1カ月に1回実施。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他に移られた場合、アセスメント、支援状況を提供し情報交換にて連携を図っている。退居後の情報交換もしている。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法、職員は理解しプライバシー尊重しプライドを損ねるような声かけはせずさりげない言葉かけや対応の配慮し秘密保持の徹底し個人を尊重し、その人らしさを活かしている。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の力量に合わせ提案し利用者が自分で決める場面作りをしている。意思疎通が困難な方には表情や態度で汲み取りその場面作りをしている。外食・出前でのメニューは本人が決定している。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れに沿っているが一人一人の体調その日の精神状態に合わせて本人の気持ちを尊重し利用者のペースに添った生活が過ごせる支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容の出張サービス利用し本人の意向を取り入れた支援をしている。個々の生活習慣に合わせた本人の好みの援助しネイルアート・毛染めを行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人・家族より嗜好調査し、献立に旬の食材を取り入れながらメニューに工夫している。毎食前に誤嚥を防ぐ為のゴックン体操を職員と一緒にやり大切な活動のひとつにしている。食器ふき、野菜の皮むき、下膳。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好物は理解しており本人の希望を取り入れ楽しめるように支援している。おやつは本人に気軽に選べる場面作りをしている。季節を感じられるおやつ等の提供をしている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表、トイレ入り口に回数カード設置し時間を把握しトイレ誘導しトイレでの排泄を促して本人のリズムに添った支援している。入居時オムツ使用していた利用者がリハビリパンツに移行、布パンツと随時の見直しを行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日までは併設デイサービスにある温泉を利用し入浴している。入浴を拒む人に対しては言葉がけや対応の工夫し支援している。時には、棟内のユニットバス使用するときもあり。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	医師の指示により眠剤服用している利用者はいるが、日中の生活の活動を促し生活リズムを整える様に努めている。詳細な個々の記録から一人一人の睡眠パターンを把握している。		現在、眠剤利用者3名 乳糖での対応者1名
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえる様に本人了解のもと得意分野を活かしての仕事として役割担当として支援している。野菜の収穫・ドライブなどで気張らしする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望、家族の了解で少額を持っている人もいる。自己管理が出来ない方は管理棟・ステーション（少額）で管理している。出張販売時本人が支払えるようお金を手渡す等買い物の支援している。		本人の管理 6名
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は体調考慮し本人の気分、希望に合わせて季節を肌で感じてもらえるように散歩、ドライブに連れ出し働きかけは積極的に行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行（津軽伝承工芸館）までの長距離の遠足を全員が参加できた。車酔いする人は酔い止め薬を服用し楽しく外出できる配慮している。職員付き添いのお墓・仏壇参りをしている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望に応じて電話をかけれるように支援している。公衆電話、子機等があり気付きがないようなようプライバシーに配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時気軽に気安い雰囲気作りを心掛けている。帰りの際は利用者と一緒に見送りしている。家族室が2部屋あり家族と一緒にくつろぎリラックスできるように提供している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や定例会で身体拘束について学び、全職員が共有し意識している。やむを得ず行動を制限する場合に関しては、家族に十分説明し同意書を交わしているが、実施したことはない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについてはその都度の対応策を講じ家族に説明している。ストレスにならないよう見守りを重視した支援をしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の中での状況を把握し様子等の変化が見られた際はバイタルチェック記録は行っている。変化に気付きがある時は見逃さず早期発見の取組んでいる。専門医を受診している。職員間でも共有しすぐに看護師、ケアマネ、管理者に報告する。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋をとじ薬の説明書で把握している。服薬時は本人にその都度手渡して服用の確認はしている。薬の変更時は申し送りノート、受診ノートを確認する事で全職員は周知徹底している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックで一人一人の排泄パターンを把握している。食材・乳製品の働きかけをし自然排泄が出来るように取り組んでいる。医師の処方のもと、個々に合わせた下剤の減量に努めている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時歯磨き、塩水にてうがい施行。個々に応じて見守り介助にて行っている。就寝前に義歯洗浄剤に浸して清潔保持に努め一人一人習慣に努めている。アイシング棒使用している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の接種量は記録し把握しており職員が情報共有している。水分摂取量の把握必要な利用者についてはペットボトル・吸い飲みで水分補給し水分量の確認している。経営者が栄養士であり献立の配慮、アドバイスをもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染についてマニュアルを作成し保健所の指示内容があるときは随時の追加見直しの実行。感染症に関しては回覧し情報収集を行い早期発見・早期対応に努めている。全職員はインフルエンザ予防接種は受けている。各居室にハンドソープ設置・消毒の徹底。入り口・ステーション・ハンドクリン。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板ふきん等は使用後毎漂白し清潔保持に心掛けている。確認表を作成し冷蔵庫に貼り、冷蔵庫内の点検掃除は実行し食材の残りの点検も頻繁に行っている。台所専用のエプロンを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板、アーチ等設置し当ホームを確認しやすい。又周辺は広々として庭木あり整備は整っており季節感を感じられるようになっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を意識できるように装飾し工夫している。利用者と一緒にテーブルの配置替えを行い暮らしの場を活かしている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは広々としてソファ、ベンチ、一人用の椅子等があり、仲のよい利用者と一緒にくつろげるペースはある工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前に愛用していた物や馴染みの物を持参する よう働きかけをしている。利用者の好み、生活ス タイルに合わせてのれん等を下げている。家族の 写真や使い慣れたタンス、置き時計、日用品あり 家庭的な雰囲気になっている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温・湿度計利用者の様子を見ながら調整してい る。光触媒のコーティング施行、水のカーテン、 加湿器使用し濡れバスタオルを掛けたりして乾燥 を防いでいる。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	施設内は、バリアフリー、ホール内に手すりが設 置している。身体状況に合わせてトイレのドアを外 し、カーテンに工夫をしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室に表札、利用者の似顔絵有り、場所間違い の工夫をしている。混乱生じた場合は素速く混乱 を長引かせないようにしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	プランターに花やミニ野菜を植えたり畑も有り、 利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境に している。東屋遊歩道あり車椅子でも自由に散策 できる配慮になっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域商店の出張販売があり水曜日は衣料店、土曜日は食品・雑貨店と利用者さんが自由に購入でき交流の場となっている。
- ・春から秋にかけて小旅行・ドライブ・魚釣り・遠足を行い活動の場を多くしている。
- ・夏祭りには家族の方・地域の方・利用者さんの参加にてねぶた運行を行っている。又、花火・まぐろの解体ショー有り好評である。
- ・運動会あり、家族や地域の方も参加し活気溢れるものとなっており日常の中で見られない利用者さんの笑顔が多々みられる。
- ・地域の人達から旬の魚や野菜・山菜の差し入れも多く郷土料理から洋風と和風折衷を取り混ぜた献立にし、基本的に冷凍食品は使用しないことも特徴のひとつです。